

2007年7月7日

人間科学研究科長 殿

### 李 翰宗氏 博士学位申請論文審査報告書

李 翰宗氏の学位申請論文を下記の審査委員会は、人間科学研究科の委嘱をうけ審査をしてきましたが、2007年7月3日に審査を終了しましたので、ここにその結果をご報告します。

#### 記

1. 申請者氏名：李 翰宗
2. 論文題名： Immediate Effects of Counselor Interventions on Client Verbal and Covert Behaviors

#### 3. 本文

本論文は、カウンセリングの過程についての基礎的な研究であり、カウンセラーの介入がクライアントの言語的および内面的行動に及ぼす影響について検討したものである。過程研究とは「カウンセリング中に何が起きているか」を記述する研究であり、セッション中にカウンセラーとクライアントが発する外面行動(overt behavior)および内面行動(covert behavior)を観察・分析するものである。外面行動は、両者が発する観察可能な言語行動を通して、内面行動は、両者が経験する認知・感情を通して測定することができる。一方、成果研究は「カウンセリングは有効であるか」という問題を検証するものである。成果研究を行う時には、介入群と統制群を設け、カウンセリングの全過程が終了した後に両群の問題改善の程度に統計的に有意な差が存在するか否かを調べる。しかし、カウンセリングがクライアントの問題解決に有効であることが検証できても、カウンセラーとクライアントの間で何が起き、それがどう作用し有効性につながったのかが説明できない。

本研究では、カウンセリング過程を観察し測定するための尺度を作成し、それを用いてカウンセラーの介入が、介入直後にクライアントの言語行動および内面行動に及ぼす影響を検討することを目的としたものである。

研究1では、カウンセリングの有効性をカウンセリングの全過程という大きい単位で測定してきた既存の観点に代わり、個々のセッションの有効性を測定するために、3因子14項目からなる有益な経験尺度(Helpful Experience Scale: HES)を作成し、その信頼性と妥当性を検証した。

研究2では、カウンセラーの介入を分類するために、Hill & O'Brien (1999) の分類システムに一部修正を加え、Helping Skills System-Modified (HSS-M)とそのマニュアルを作成した。その後、HSS-M を用い、来談者中心療法および論理情動療法の著名なカウンセラーが行った面接の逐語録を比較・分析し、両療法の差異を検討することによりHSS-M の妥当性を検証した。

研究3では、クライアントの言語行動を分類するために、Hill Client Verbal Response Modes Category Systems (Hill, 1986) および Client Behavior System (Hill et al., 1992) からカテゴリーを選び、Client Response Modes System (CRMS)とそのマニュアルを作成した。その後、大学生同士の会話と著名なカウンセラーによる面接の逐語録を比較・分析し、CRMS の信頼性と妥当性を検討した。

研究4と5では、二段階の分析戦略を立て、カウンセラーの介入とクライアントの行動との関連を系列分析により検討した。まず、第一段階では、カウンセリングセッションの有効性に肯定的もしくは否定的な影響を及ぼし得るクライアントの行動の確認を試みた。第二段階では、第一段階で確認できたクライアントの行動が、カウンセラーのどのような介入により引き起こされやすいのかを検討した。

研究4では、本研究の趣旨を説明し同意が得られた大学生 32 名を対象に模擬カウンセリングを行い、カウンセラーの介入がクライアントの言語行動に及ぼす影響を検討した。まず、クライアントの言語行動の発生比率と HES 得点との関係を調べた。これにより、セッションの有効性に肯定的もしくは否定的な影響を及ぼし得るクライアントの言語行動が確認された。その後、カウンセラーの介入がこれらのクライアントの言語行動の発生確率に及ぼす影響を検討した。その結果、クライアントの自己探索を促進する介入と妨げる介入の存在が確認された。

研究5では、研究4で行われた模擬カウンセリングから得られたクライアントの自由記述を基に、クライアントが有益であると評価した介入と有益でないと評価した介入に対する内面行動の内容の詳細を調べ、Positive and Negative Effects Taxonomy (PNET) を作成した。その後、カウンセラーの介入と PNET の各々のカテゴリーの関連のパターンを検討した。その結果、カウンセラーの介入がクライアントの内面行動に及ぼす肯定的・否定的影響の内容が示された。総合考察では、本研究の成果・意義とともに、限界と今後の課題についても述べられている。

本研究は、カウンセリングの中でどのような介入がクライアントの言語的および内面的行動にどのような影響を及ぼすかについての基礎的な過程研究であり、従来のカウンセリング全体としての有効性を検討する成果研究においては欠落している視点を提供するものである。本研究では、個々のカウンセリングセッションの有効性を測定する HES、カウンセラーの介入を分類するための HSS-M、クライアントの言語行動を分類するための CRMS、内面行動を分類するための PNET の4つの測度を作成し、その信頼性・妥当性を検証するとともに、これらの測度を用い模擬カウンセリング中のカウンセ

ラーの介入及びクライアントの言語的、内面的行動の系列分析により、その関連性を検討したものである。その結果、どのような介入がクライアントの言語的・内面行動にどのような影響を与えるかについての基礎的な資料を提供した点に、本研究の独創性がある。これらは模擬カウンセリングから得られた結果であるため、実際の臨床場面でも同様の結果を得られるか否かは今後の研究で検討すべき課題であるが、このようなエビデンスの蓄積がより機能的なカウンセリング技術の向上に資するところは多大であると考えられる。

なお、本研究の一部は、Counselor response modes and session outcome (Psychological Reports,2006)および Measuring the effectiveness of counseling sessions: The Helpful Experience Scale (European Journal of Scientific Research, 印刷中)に発表されている。

また、本論文は秀逸な英文で書かれており、論文の内容もさることながら卓越した英語力と並々ならぬ努力の結晶であると考え、高く評価するものである。

したがって、本審査委員会は、李 翰宗氏の学位申請論文「Immediate Effects of Counselor Interventions on Client Verbal and Covert Behaviors」が博士（人間科学）に値する研究であるとの結論に至った。

#### 4. 李 翰宗氏 博士学位申請論文審査委員会

主任審査員	早稲田大学	教授	博士（医学）（東京大学）	野村 忍 印
審査員	早稲田大学	教授	博士（人間科学）（早稲田大学）	根建 金男
審査員	早稲田大学	准教授	博士（人間科学）（早稲田大学）	嶋田 洋徳